

競技注意事項（案）

（トラック&フィールドの部）

1. 競技規則について

本大会は 2020 年度日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項に従って実施する。

2. 招集について

- (1) 第一次招集は競技者係にて番組編成にある本人の組・レーンを確認し、ナンバーに○をつけること。ただし、並ぶ際には一定の距離を保つこと。
- (2) 5000m、10000m、10000mW に関しては、第1次招集時に腰ナンバーカードと番号をあわせた長距離専用別ナンバーカードを配付する。また、長距離専用別ナンバーカードは競技終了後、必ずマーシャル係に渡すこと。
- (3) リレー競技の第1次招集は、リレーオーダー用紙の提出のみとする。その際に、アスリートビブス、商標、同一ユニフォームであるかを確認するため、出場者4名で行うこと。
- (4) 同一時間に2種目以上出場する競技者、および競技中のため他の種目の第1次招集を受けられない競技者は、第1次招集終了時刻までに重複出場届を競技者係に提出すること。
- (5) 重複出場届を提出した場合も、必ず本人または代理人が第1次招集を受けなければならない。その際、重複出場届の控えを持参すること。
- (6) 第1次招集は、競技者係にて下記の通り行う。なお、1部棒高跳・女子棒高跳の第1次招集は、現地にて行う。

種 目	招 集 開 始 時 刻	招 集 終 了 時 刻
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
跳躍種目(棒高跳以外)	競技開始 70 分前	競技開始 50 分前
投 擲 種 目	競技開始 60 分前	競技開始 40 分前
棒 高 跳	競技開始 90 分前	競技開始 80 分前

- (7) リレーオーダー用紙は、競技開始の 90 分前までに競技者係へ提出すること。リレーオーダー用紙を提出しなかった場合、そのチームは欠場とみなす。（「3.欠場について」参照）
- (8) リレーチームの編成は、必ず当該リレーチームでエントリーしている者が2名以上含まれていなければならない。決勝も同様である。（競技規則第170条10項）
- (9) リレーオーダー用紙提出後の選手変更は、本大会の医師、医務員の判断がない限り認められない。この規則に従わなければチームは失格となる。（競技規則第170条11項）
- (10) リレーオーダー用紙・重複出場届・当日欠場届は受付および競技者係にて配布する。

3. 欠場について

- (1) 事前に欠場者が判明している場合は、10月18日(日)17時までに事前欠場者届を関西学連事務所までメールにて提出すること。事前欠場は代表者会議にて承認する。それ以降の欠場は原則として認めない。
- (2) 当日欠場は原則として認めない。ただし、やむを得ない場合に限り、当該種目の競技当日に当日欠場届を大会本部の総務に提出して承認を得ることで欠場が認められる場合がある。この場合、総務より当日欠場届の下半分を受け取り、当該種目の第1次招集終了時刻までに競技者係に提出すること。
- (3) 当日欠場届には、監督および本人のサインを記入すること。ただし、大会当日に監督が不在の場合は、事前に監督代行届を提出している場合のみ、申請した代理人の署名を認める。
- (4) リレー競技の当日欠場についても上記の手続きを満たし、競技開始の90分前(リレーオーダー用紙提出締切時刻)までに当日欠場届を提出すること。
- (5) 混成競技において途中棄権する場合は、必ず混成競技係に申告の上、混成競技途中棄権届を早急に総務、競技者係の順に提出すること。
- (6) 当日欠場届未提出およびコール漏れ(現地招集を含む)については、1名につき種目ごとに所属大学の総合得点より1点の減点を行う。また、リレー種目についても(オーダー用紙未提出含む)同様に1チームにつき所属大学の総合得点より1点の減点を行う。

4. 競技者の服装について

- (1) 同一大学は、事前に学連に提出した同一のデザインのユニフォームを着用すること(提出したユニフォームと異なれば出場を認めない)。これはリレー競技に限らず、すべての種目について適用する。提出したものと異なる形状のユニフォーム(トップスとショーツなど)を使用する場合も、色・デザインを統一させること。
ただし、2015年4月1日からの規定変更に伴いユニフォームの変更を行っている大学は、申請を行えば変更前と変更後の複数のデザインのユニフォームを認める場合がある。
- (2) アスリートビブスはユニフォームの胸部および背部に折り曲げたりせず明瞭につけること。ただし、跳躍競技においては胸部または背部の一方だけでよい。
- (3) 5000m・10000m・10000mWに関しては、第1次招集時に受け取った腰ナンバーカードと番号を合わせた長距離専用別ナンバーカードを使用すること。
- (4) 全てのトラック競技の腰ナンバーカードは右腰に明瞭につけること。腰ナンバーカードは第1次招集時に競技者係にあるので、自分のレーンナンバーを取ること。腰ナンバーカードは競技終了後ゴール地点で返却すること。途中棄権などで競技を中止した場合も返却すること。
- (5) 混成競技の各日最終種目の腰ナンバーカードは、現地招集時に現地にて受け取ること。
- (6) WAルールを適用し、本大会においては厚底シューズの使用は禁止する。**第1次招集時にシューズの計測を行なうため、使用するシューズを持参**すること。(競技規則第143条TR5)ただし、フィールド競技においては適用しない。
- (7) 使用するスパイクのピンの長さはトラック・フィールド共に9mm以下とする。ただし、

走高跳およびやり投については12mm以下とする。(競技規則第143条4項)

5. 競技用器具について

- (1) 使用器具は原則として競技場備え付けのものを使用すること。ただし個人所有のやり及び砲丸の使用を希望する場合は、競技開始の90分前から60分前に検査を受けて許可を受けなければ、使用することができる。検査は南側倉庫で行う。ただし、検査時間が開門以前となる場合には、正面玄関にて検査を行う。
- (2) 棒高跳用ポールは各自で持ち込んだものを使用すること。

6. トラック競技について

- (1) 計時について、トラック競技の計時は写真判定(0.01秒)とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時(0.1秒)とする。
- (2) 組編成のためのランキングの順位を決定するときや次ラウンド進出のための最後の1枠を決めるにあたり異なる組で同成績がいる場合、0.001秒の実時間を考慮して決定する。(競技規則第167条2項)
- (3) 800m予選においては、競技運営の都合上1組9名を超えて競技を行うことがある。その場合、9・8・7レーンの順に2人ずつ選手が入る。
- (4) 5000m・10000m・10000mWに関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で残り1周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。

	5000m	10000m	10000mW
男子1部	17分	34分	55分
男子2部	17分	36分	55分
女子の部	20分	40分	60分

- (5) 5000m以上の競技において気象状況により給水を行う場合がある。

7. フィールド競技について

(1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

種目	種別	ピット	試技開始	備考
走高跳	1部	Aピット	1m90	2m10まで5cm刻み、以降3cm刻み
	2部	Aピット	1m85	2m10まで5cm刻み、以降3cm刻み
	女子	Aピット	1m55	1m65まで5cm刻み、1m69以降3cm刻み
	十種競技	Aピット	1m75	1m90まで5cm刻み、以降3cm刻み
		Bピット	1m50	
七種競技	Aピット	1m25	1m60まで5cm刻み、以降3cm刻み	
棒高跳	1部	Aピット	4m40	5m00まで20cm刻み、以降10cm刻み
		Bピット	4m00	
	2部	Aピット	3m80	4m80まで20cm刻み、以降10cm刻み
	女子	Aピット	3m00	3m60まで20cm刻み、以降10cm刻み
	十種競技	Aピット	3m40	4m20まで20cm刻み、以降10cm刻み
		Bピット	2m20	

(2) 走高跳・棒高跳の練習の高さは当日、選手と審判員の協議により設定する。また、悪天候などの不測の事態が発生した場合は、総務・審判長・ヘッドコーチの協議により設定の高さを変更し競技を行う場合がある。

(3) 競技者が1人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。ただし、2つのピットに分かれている場合は、両ピットを通じて1人になった場合に限る。

(4) 三段跳の踏切板の位置は、男子は13m、女子は11mとする。

(5) 走幅跳（混成競技含む）及び三段跳では、粘土板を使用する。

(6) 棒高跳の公式練習を行う際はゴムバーを使用する。

(7) 投擲種目の公式練習は2回までとする。ただし、ハンマー投は1回とする。

(8) 現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行くことができる。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務・ヘッドコーチ等で協議し対処する。（競技規則第144条2項）

8. 混成競技について

別紙「十種競技申し合わせ事項」および「七種競技申し合わせ事項」に従うこと。

9. 表彰について

(1) 各種目3位までに入賞した競技者は表彰状を中央エントランスにて配布する。競技終了後、中央エントランスにて表彰係から表彰状を受け取る。最終日の競技終了後、各部門の表彰物を配布するため、成績発表後該当大学は競技終了後エントランスに取りに行くこと。

10. 対校得点について

- (1) 各種目の対校得点及びボーナス得点は下記の通りとする。なお、ボーナス得点は1選手につき全ラウンドを通じて1回限り、該当する最大得点のものを与えるものとする。

[対校得点]

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

[ボーナス得点]

日本新記録	30点	日本タイ記録	25点	日本学生新記録	20点
日本学生タイ記録	15点	関西学生新記録	10点	関西学生タイ記録	7点
大会新記録	5点	大会タイ記録	2点		

- (2) 総合得点と同点の場合は、優勝種目数の多い大学を上位とする。優勝種目数が同じ場合は2位種目数の多い大学を上位とし、以降3～8位まで同様に比較する。以上の点で同じ場合は同順位とする。
- (3) エントリー時点で出場が3大学以下または7名以下となった種目については得点対象としない。

11. ドーピング検査について

本競技会では出場競技者にドーピング検査を実施する。ドーピング検査の通告を受けた選手は、ドーピングコントロールオフィサーおよびドーピング通告員の指示に従い、ドーピング検査を受けなければならない。

12. 抗議の申し立てについて

- (1) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、結果が正式に発表（アナウンス）されてから、同一日に次のラウンドが行われる場合は15分以内に、それ以外の場合は30分以内に、その競技者あるいはチームの監督が口頭で審判長に申し出なくてはならない。（競技規則第146条2項、3項）
- (2) 審判長の裁定に不服な場合は文章と委託金1万円を添えて Jury に上告する。この抗議は Jury が即決し、その結果は最終的なものとなる。（競技規則第146条7項）

13. 競技場使用の注意

- (1) 10月20日（火）の開門予定時刻は午前8時30分とする。また、21日（水）～23日（金）の開門予定時刻は8時15分とする。
- (2) テントなどはテーブル類を使用せず紐等で固定し、全日とも競技終了後は速やかに撤去すること。
- (3) 屋内（招集場所）・更衣室内に荷物やシート類を置いての場所取りは禁止とする。
- (4) ポール・やりの事前輸送は認めない。ポール・やりの輸送に関しては、各団体の責任で行うこととする。なお、輸送を行う場合は下記の宛先、期日の指定時刻以内に設定すること。ただし、輸送する場合は、業者が来る期日・時刻を事前に弊連盟までメールすること。

下記以外の期日・時刻に輸送することは禁止とする。また、受取の際には各大学代表者1名が立ち会うようにすること。

〔宛先〕 〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園 1-1

ヤンマーフィールド長居 陸上競技場

「第 97 回関西学生陸上競技対校選手権大会」宛

〔期日〕 2020 年 10 月 20 日 (火) 午前着

※保管場所は 4 日間通じて競技場正面玄関受付前とする。ただし、保管中に破損などがあったとしても、主催者は一切責任を取らないものとする。

また、返送に関しても各大学の手配すること。ポール・やりを保管場所に置いている大学は **10月23日(金)16時00分まで**に受け取りに来ること。

- (5) 全日程において、競技(閉会式)終了30分後に閉門するので、速やかに退場すること。
- (6) ごみは各自で持ち帰ること。
- (7) 今大会では声を出しての応援は一切禁止とする。
- (8) メインスタンドでの集団応援及びテントの設置は終日禁止とする。
- (9) 横断幕とのぼりの設置は禁止とする。
- (10) 飛沫感染防止のためグラウンドレベルでの応援は認めない。

14. 悪天候の際の対応

- (1) 競技の実施が不可能となることが予想される場合には、会長・ヘッドコーチ・競技委員長・事務局長・幹事長と陸協等で方針を協議する。
- (2) 中止種目の得点は、どの大学の対校得点にも加算しない。
- (3) 対校戦として成立するには、対校種目数の4分の3以上(男子23種目のうち18種目以上、女子22種目のうち17種目以上)の決勝の実施が必要となる。対校戦として成立しない場合には、1部と2部の入れ替えも行わない。
- (4) 中止となった種目のエントリー料の返金は行わない。

15. その他

- (1) 参加校は学生審判および学生補助員の派遣要請に基づき、定められた数の学生審判および学生補助員を派遣すること。学生審判の服装は正装とし、公認審判員カードを着用して審判にあたること。受付にて配付する名札と腕章も着用すること。学生補助員はクラブ指定のジャージの着用のみを認める。派遣しなかった大学は以降の出場を認めない。
- (2) 悪天候等により競技の続行が難しい場合、総務・審判長・関西学連会長・ヘッドコーチの協議によって、大会を中止する場合がある。
- (3) 競技場内へ立ち入る際、競技場保護のためヒール等の底の固い靴は一切禁止し、アップシューズもしくはスニーカーで入場すること。学生審判・補助員も同様とする。
- (4) 競技者は競技区域内にビデオ装置、レコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーや携帯電話もしくは類似の機器を持ち込めない。(競技規則第144条3項)
- (5) 荷物の管理は各自で行うこと。紛失、盗難に関して主催者側は一切の責任を負わない。

- (6) 注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為などが見受けられた場合、その学生の所属する大学の以降の競技を中止させ処罰を与える。
- (7) 競技場器具を破損した場合、当該競技者の所属大学より必要代金を徴収する場合がある。
- (8) 大会期間中に疑問な点があれば、大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟